



日本共産党・前都議会議員 東京民報折りこみ版

そねはじめレポート

2012年 7月 4日発行 第 47 号

そねはじめ事務所

114-0032

北区中十条2-11-6

Tel: 3907-1135

Fax: 3906-3225

官邸前に空前の規模で原発許さぬ人の波！

6月29日の夕刻、首相官邸前に集まり始めた人たち
(撮影：そね前都議)



大飯の再起動で諦めず、原発推進の財界とのたたかいに勝ちぬこう！

◆すぐ溶け込める行動

「金曜日の夜、首相官邸前に集まり原発再稼働ノ―を訴えよう」という一人の青年のツイッター(つぶやき)から3月ごろ始まった運動が、とうとう6月22日に4万5千人、29日に10万人規模に拡大しました。

◆再起動後も諦めずに大飯原発再起動のスイ

周囲では「再稼働反対！」と叫んでいるので、安心して一緒に声を上げすぐ溶けこめる雰囲気でした。党北区議団は、7時過ぎに到着。すでに首相官邸前は車道も含め完全に参加者で埋めつくされていました。元民主党のM衆院議員も「俺も、国会で30年になるけどこんな初めてだ」とつぶやいていました。

官邸前行動に参加したそねはじめ前都議 (右手前)



ツチは押されましたが、翌日は新宿アルタ前で「素人の乱」の抗議集会。みんな諦めずに頑張っています。

◆7・16の成功を

7月16日には代々木公園で、都内の各民主団体や個人が結集する原発ノ―の集会が行われます。

そね前都議は、北区からも大勢の区民を誘ってぜひ大成功させようと呼びかけています。

6月12日に練馬を行進した自衛隊員



7月16～17日自衛隊迷彩服の行進訓練に区役所を利用させるな

北区は16日夜から翌朝にかけて、練馬の自衛隊員が迷彩服を着て災害時の情報収集の歩行訓練で区役所の駐車場やトイレ利用の要請があったと公表しました。党区議団は3日、自衛隊歩行訓練は区庁舎より隣の自衛隊基地を使うよう要求すべきと申し入れました。

小沢派離脱で野田政権の崩壊がはじまった

政党の最低のモラルさえ放棄した民主党に政権の資格なし

消費税増税法案と国民の生存権への国の責任を後退させる社会保障大改悪法案を衆議院で採決した後、野田政権の実態は“破れかぶれ”の一言につきまます。

◎危険な米軍機、日本の金で

そねはじめ前都議は連日街頭で「安保条約が必要と言う政府でも、墜落事故をくり返している軍用機オスプレイまでアメリカに配備させ、費用も一部負担させられて独立国と言えるのか」と余りのアメリカ軍い

◎「原発稼働OK」で国民の怒りが噴出

また野田内閣が安全根拠もないまま「国民のため」と言っただけの大飯原発再起動を決めたことには国民の怒りが噴出しており、国民への最低のモラルと約束を放棄した民主党から、沈没船からネズミが逃げ出すように小沢派議員が脱党しています。

◎増税NO・原発NO・米軍増強NOそれぞれで連帯を

共産党は、増税反対の一点で共闘を広げつつ、原発再稼働NO!の官邸前の行動にも協力し、沖縄はじめ米軍の増

強やオスプレイ配備反対でも、幅広く共闘を広げ、行動の先頭に立っています。

3月ごろ少数で始まった「金曜日首相官邸前の行動」も一貫して報道してきたのは赤旗新聞だけで、参加者から信頼されています。

◎選挙で政治を変えよう

そね前都議は、政治をゆるがす空前のたたかいを、選挙での一票一票に結びつけ、国会を変えてこそ政府を動かす力になること、総選挙や、来夏の都議選・参議院選での党の躍進、そねはじめの再選に支援を訴えています。



十条駅で消費増税ストップを訴えるそね前都議

ゆきづまった石原知事の尖閣買い取り構想／宙に浮いた10億円超募金

石原知事の尖閣諸島一部買取り構想が、都議会に議案がだせず暗礁に乗り上げています。

知事は担当に局長級の理事を置くなど強気ですが、都政新報（都政の専門紙）は「政治家・石原慎太郎には尖閣問題は当事者中の当事者だ。だが行政組織としての都には当事者たる理屈を整理できていない」と指摘。10億円以上集まった募金も今さらお返ししますとは言えず宙に浮いています。

同紙は「議会での議論も始まらないうちに当事者であるかのごとく既成事実を積み上げてしまった」「独走をなぜ都庁は止められなかったのか」と冷ややかに報道しています。

そねはじめ交友録 <その四十一>

たいへんな人物が新市長に当選しました

先日、都内で唯一の共産党員首長が勇退した多摩の某市で、残念ながら後継者へのバトンタッチが果たせず、民主・自民・公明などの推薦するT氏が新市長になりました。以前、私や民主党、自民党の辰年生まれの議員と、当時怪腕をふるっていたT氏とで「昇龍会」という親睦会をつくった話を書きましたが、T氏は当時、臨海開発や調布飛行場拡張など、住民の反対運動が強かった問題で説明役を担い、「すご腕」を買われて、その後、オリンピック招致で真っ先に動いた交通局の部長などを歴任しました。

人間的には、たいへん愉快で雄弁闊達な人物ですが、行政のトップとして、せっかく築かれてきた「湯水の公共事業漬けのギャンブル市政」からの脱却と、文化と福祉のまちづくりが、気がついたらまた開発の渦に巻き込まれないよう、私も注視して見守りたいと思います。

多摩の某市を選挙で応援に訪れ、街頭で訴えるそねはじめ都議（08年6月当時）

